

# ナマズの知恵袋

平成24年(2012年)9月1日  
編集・発行 滋賀県立図書館

## 明日の天気は晴れ？雨？くもり？



今年も暑い日が続いています。また、大雨や竜巻が発生したこともあって、天気予報や気象情報に注意をされる方も多かったのではないのでしょうか。今号では、身近でありながら、意外と知らない天気・空についての資料を紹介します。

### 基本の用語を調べる

■『身近な気象の事典』 日本気象予報士会編 新田尚監修 東京堂出版 2011年 [R-4510-ニ]

■『お天気用語事典』 饒村曜著 新星出版社 2002年 [G-4510-ニ]

エルニーニョ現象や竜巻、地球温暖化など日常気になる天気に関する言葉を、図や表も交えてわかりやすく解説しています。

### 過去の天気を調べる

■『気象年鑑』 気象業務支援センター編・刊 [R-4510-キ]

前年1～12月の毎日の天気図、世界の天候、降水量や真夏日の日数などの主要地の気象記録、気象業界の動きなどが掲載されています。当館では1972年版から所蔵しています。

■『滋賀の気象(月報・年報)』 彦根地方気象台 [事務用雑誌・参考資料室カウンターでご覧いただけます]

気象概況、気象経過図、県内各観測地での気温や降水量、注意報・警報発表状況、異常気象・気象災害などが掲載されています。彦根地方気象台のHPからも見るができます(<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>)。

■気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

最新の気象映像や過去の天気や気温などのデータ、天気予報に用いる用語の解説などがあります。

また、イチョウの紅葉日などの生物規則観測のデータも見ることができます(気象統計情報>地球環境・気候>生物規則観測の情報)。

### 天気について学ぶ

■ 雨の降る仕組みや天気図の読み方、どのように天気予報をしているかなど、天気について知りたくなれば

『よくわかる気象のしくみ 図解雑学』 青木孝監修 ナツメ社 2006年 [G-4510-ア]

『気象・天気図の読み方・楽しみ方』 木村龍治監修 成美堂出版 2004年 [G-4510-キ] など、トピックスごとにわかりやすく解説した図書が出版されています。

### 特徴的な日本の季節

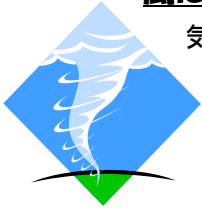
「二十四節気」は、太陽の運行にしたがって1年を分けたものです。「立秋」をすぎたら「残暑見舞い」を出す、など今でも季節の節目をあらわす言葉として使われています。『四季の教科書』 高橋健司写真・文 教育出版 2003年 [G-4519-タ] や『ニッポンの二十四節気・七十二候』 環境デザイン研究所編 横井隆和写真 誠文堂新光社 2008年 [G-4518-カ] ではそれぞれの特徴をあらわした写真とともに、天気図や気象データなども掲載しており、季節の移り変わりを実感できます。

天気について、こんな本も

『桶狭間は晴れ、のち豪雨でしょう』 松嶋憲昭著 メディアファクトリー 2011年 [G-2100-マ]

日本史上の大きな出来事があった日の天気を、古文書やその土地の気候をもとに推測しています。

## 風について調べる



気象は大気の流れに大きく影響されます。太陽によって温められた大気は、風となって地球上のあらゆる場所を循環し、熱や水蒸気を運ぶのです。風についてのあれこれを、こんな本で調べてみてはいかがでしょうか。

■『風の事典』 真木太一・新野宏編 丸善出版 2011年 [G-4514-マ]

定義に始まり、生活・地形・災害・スポーツなど、様々な切り口から風を論じた本。一通りのことがわかります。

■『風の事典』 関口武著 原書房 1985年 [R-4514-セ]

同じタイトルですが、こちらは日本各地でどのような風がどう呼ばれているかを集めたもの。「琵琶湖の風の名前」も詳しく載っています。

■『風の名前』 高橋順子文 佐藤秀明写真 小学館 2002年 [G-4514-タ]

382の風の名前を写真と共に紹介した、新感覚の歳時記です。

■また、風と気象・環境の関わりについて詳しく取り上げた本としては、『気象予報のための風の基礎知識』 山岸米二郎著 オーム社 2002年 [G-4514-ヤ]、『風で読む地球環境』 真木太一著 古今書院 2007年 [G-4514-マ] などがあります。

---

## 雲について調べる

雲は大きく10種類に分けられます。さらに、高さや形などで細分化されて、最終的には約100種類に分類されます。名前の付け方にもルールがあり、たとえば、「ひつじ雲」という名前は俗称で、学術的には「高積雲」といいます。

■『雲のカatalog 空がわかる全種分類図鑑』 村井昭夫・鶴山義晃文・写真 草思社 2011年 [G-4516-ム]

■『雲の大研究 気象の不思議がよくわかる!』 岩槻秀明著 PHP研究所 2005年 [JB-45]

雲の名前や形を調べることができます。雲を観察するうえでの基本的な知識やワザも掲載しています。

■『雲を見ればわかる明日の天気』 塚本治弘著 地球丸 2005年 [G-4512-ツ]

■『雲のかたちで天気がわかる』 新田尚ぶん 大日本図書 2002年 [J-45]

高積雲が晴れている時に現れたら翌日は雨、特に塔状になったら5~6時間後に雷雨になる、など雲と天気の関係がわかります。

### 写真で楽しむ空の世界

■『すごい空の見つけかた [1]・2』 武田康男写真・文 草思社 2009・2012年 [G-4510-タ]

■『空撮世界の雲の風景』 山田圭一写真・文 成山堂書店 2007年 [G-4516-ヤ]

■『空のどうぶつえん』 田中達也著 講談社 2005年 [G-4516-タ]

■『雨のくに』 佐藤秀明著 ビエ・ブックス 2004年 [Y-7480-サ]



## 雨について調べる

雨とは、雲を構成する極めて小さな雲粒の中に生じた雨粒(大きさは雲粒の100万倍)が、地表に降ってきたものです。雨の多い日本では、良きにつけ悪きにつけ、古来より身近な存在でした。

■『雨のことば辞典』 倉嶋厚監修 講談社 2000年 [G-4516-ク]

■『雨と日本人』 宮尾孝著 丸善 1997年 [Y-4516-ミ]

■『雨の景観への招待 名雨のすすめ』 小林享著 彰国社 1996年 [Y-4516-コ]

などは、そのような日本人の雨への親和性を物語っています。

■『雨の科学 雲をつかむ話』 武田喬男著 成山堂書店 2005年 [Y-4516-タ] は、雨粒の生成から降雨、集中豪雨や地球温暖化までをわかりやすく解説した本。「降雨システム」や「水循環」、「豪雨」について詳しく書かれた

■『豪雨と降水システム』 二宮洸三著 東京堂出版 2001年 [Y-4516-ニ] もおすすめです。